

【令和3年度事務事業評価】令和2年度実施事業の評価・検証結果

資料 2

1 今年度の実施概要

- 令和2年度に実施した評価対象事業(16事業)について、担当部局による内部評価を行い、その結果を県HPに公表。
- 内部評価に対する県民意見募集(16事業)、及び行政支出点検・行政改革推進委員会における外部評価(6事業)を実施。
- 評価・検証の結果は、部局マネジメントによりR4当初予算編成に反映。



2 内部評価(担当部局による評価・検証)結果

○活動実績(アウトプット)の評価内訳



○成果実績(アウトカム)の評価内訳



評価項目(全5項目)		A評価		B評価		C評価		—(該当しない)		合計
		事業数	割合	事業数	割合	事業数	割合	事業数	割合	
事業の必要性	事業の目的が県民や社会のニーズを的確に反映し、成果目標の明確な達成手段として位置づけられ、優先度の高い事業となっているか。 また、市町村・民間等に委ねることができない事業なのか。	16	(100%)	0	(0%)	0	(0%)	0	(0%)	16
	支出先の選定や受益者との負担関係は妥当であるか。	15	(93.8%)	1	(6.3%)	0	(0%)	0	(0%)	16
事業の効率性	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。 また、類似の事業がある場合、他部局等と適切な役割分担を行っているか。	14	(87.5%)	2	(12.5%)	0	(0%)	0	(0%)	16
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。 また、整備された施設や成果物などは十分に活用されているか。(アウトプット)	8	(50%)	7	(43.8%)	1	(6.3%)	0	(0%)	16
事業の有効性(達成度)	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。(アウトカム)	5	(31.3%)	7	(43.8%)	2	(12.5%)	2	(12.5%)	16

【評価基準】 A: 目標を上回る成果、活動見込を上回って達成(100%以上)。
 B: 概ね目標どおりの成果、活動見込を概ね達成(80~99%)。
 C: 目標を下回る成果、活動見込を下回った(79%以下)。
 -: 該当しない

3 外部評価の概要

(1) 県民からの意見

- ◇ 県HPにおいて、県民から意見を募集(令和3年10月4日から令和3年11月5日)
- ◇ 対象事業:平成29年度当初予算「重点項目推進特別枠」を活用し、令和3年度まで継続して実施されている6事業及び令和2年度当初予算「施策展開特別枠」を活用した10事業
- ◇ 提出された意見の数:14件

(2) 行革委員会における意見

- ◇ 令和3年度第2回行政支出点検・行政改革推進委員会(R3.9.6)において、評価を実施
- ◇ 対象事業:平成29年度当初予算「重点項目推進特別枠」を活用し、令和3年度まで継続して実施されている6事業

《主な意見》

- 地域で支える子育て安心事業費
 - ・ 評価を行うにあたって、連携して実施する市町村等からの意見の吸上げのようなものがあるのもよいのではないか。(委員意見)
 - ・ 放課後児童クラブ利用料補助人数の実績が若干下がっている。コロナ禍で困難な状況にあることを踏まえ、さらに制度を周知すべき。(委員意見)
- 届けよう山形の魅力プロジェクト事業費
 - ・ 農産物や食品のブランド知名度は全国的に高くなっているが、工芸品や衣類、雑貨の質の良さはまだ知名度が低いと思う。アンテナショップで工芸品や雑貨などの販売があっても良いと思う。(県民意見)
- やまがた森林ノミクス推進事業費
 - ・ 「やまがた森林ノミクス」という名称だけでは業務の内容までは把握できないので、県の取り組みのPRに力を入れていくべき。(県民意見)
 - ・ 地震対策として木塀の開発が進んでいる状況でもあるため、活動指標に「木造化・木質化の割合」を設定しても良いのではないか。(県民意見)

4 対応(主なもの)

- 地域で支える子育て安心事業費
予算を増額して事業を継続するとともに、市町村と連携し、さらなる周知に努める。
- 妊娠・出産・子育て安心生活応援事業費
結婚・妊娠・子育てを応援するプログラム「山形しあわせ[♻]LIFE応援プログラム事業」のなかで不妊治療の助成を実施するとともに、本プログラムについてPRを推し進め、周知を図っていく。
- 届けよう山形の魅力プロジェクト事業費
アンテナショップでは工芸品や雑貨なども販売しているが、一部の品目に限られることから、販売品目を増やすことを検討していく。
- バリアフリー観光推進事業費
観光庁で類似の補助事業を行っていること、また、これまでの取組みの成果により観光施設トイレのバリアフリー化が進み、一定の成果が得られていることから、令和3年度をもって廃止する。
- やまがた森林ノミクス推進事業費
「やまがた森林ノミクス」への県民総参加に向けた意識醸成のための情報発信や普及啓発等に特化した事業とし、「やまがた森林ノミクス」の情報発信について、SNSなどを活用し引き続き積極的に取り組んでいく。
- オリンピックメダリスト育成事業費
部活動が少ない競技等の中高生の有望選手に対し、競技団体が活動拠点(地域・施設)を活用し、一貫した育成・強化を図れるよう、新たに支援を行う。
- 事務事業評価全体
 - ・ 市町村と連携して実施する補助事業等については、県の主体的な評価だけではなく、必要に応じて事業の課題や改善点等について連携先の意見を聴取したうえで評価を実施することとした。
 - ・ 個票の様式を見直し、活動指標・成果指標の記載欄を4つに増やし、実施内容(予算の1グループ)に対しそれぞれ活動指標・成果指標を設定することとした。

令和2年度実施事業(H29～継続6事業)の外部評価における意見への対応状況一覧

事業名 (R2 当初予算)	事業概要 (R2)	外部評価	所管部局の対応	R4 当初予算の内容 (見直しの内容)
<p>地域で支える子育て 安心事業費</p> <p>【しあわせ子育て応援部】</p> <p>73,488千円</p>	<p>経済的理由から放 課後児童クラブの 利用を控えること のないよう、市町 村が低所得世帯や 多子世帯に対する 利用料の負担軽減 を行った場合に、 その支援を行う事 業</p>	<p>[委員意見]</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和元年度から令和2年度の放課後児童クラブ利用料軽減人数の実績が若干下がっている。各家庭もコロナ禍で大変な状況にあると思われるので、さらに制度の周知をお願いしたい。 多子世帯については年収 640 万円未満が条件であるが、これについては今後検討が必要なのではないか。 評価を行うにあたり、市町村からの意見の吸い上げのようなものがあっても良いのではないか。 県の出生率を上げるために、県民や、県内への移住定住のためにもPRすべき大事なことなので、このような事業は今後も続けていただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍にあつては、放課後児童クラブにおいても登園自粛や預け控えなどがあり、利用者が減っているところである。今後も、利用料の負担を理由に利用を控えることがないよう、市町村と連携し、制度の周知に努める。 県内の平均的な世帯年収をカバーするよう制度設計したものであり、全国トップクラスの支援ということで、全国知事会でも、事例紹介している。 放課後児童クラブの利用料軽減については、本来政府において制度を創設すべきであり、今後も継続して、政府に対する施策提案を続けていく。 日頃から各放課後児童クラブの実施主体である市町村や関係団体からの相談や意見交換を密にして進めている。今後もしっかりと現場の声をお聞きしながら政策に反映していく。 御意見を踏まえて、取組みを継続していく。 	<p>【予算額】 84,818千円</p> <p>【見直しの内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> 放課後児童クラブは仕事と子育ての両立を図るために不可欠なものであり、利用料の負担を理由に利用を控えることがないよう、また、市町村からの要望もあることから、事業を継続していく。 市町村と連携し、さらなる制度の周知に努めていく。

事業名 (R2 当初予算)	事業概要 (R2)	外部評価	所管部局の対応	R4 当初予算の内容 (見直しの内容)
<p>妊娠・出産・子育て 安心生活応援事業 費 【しあわせ子育て応援部】 38,502 千円</p>	<p>妊娠・出産・子育て に対する不安を解 消するため、生まれ てくる赤ちゃんとし 育て家庭を社会全 般で応援するメッセ ージを送るととも に、子育て包括支 援センターの充実 等、妊娠期から出 産、子育て期にわ たる切れ目のない 支援を充実する事 業</p>	<p>[委員意見]</p> <ul style="list-style-type: none"> 活動指標と成果指標の設定について、事業概要に実施内容が4つあるのに対し、活動指標や成果指標が1つしかないため、せっかく実施したものがあっても評価されないのはもったいない。赤ちゃん応援メッセージギフト贈呈者数以外にも指標として設定できるものがあつたのではないかと思うので、今後、活動指標・成果指標を設定する際に検討いただきたい。 母子保健コーディネーターを対象に研修してはどうか。また、その研修の実施を活動指標に入れても良いのではないか。参加者の後の活動の追跡についても必要ではないか。 出生率向上の観点から、「出産・育児を地域で支える」ということをもっとPRしてはどうか。 全国で7例しかない県内全市町村での子育て世代包括支援センターの設置のことをもっとPRしていけば県内への移住定住と結びつくと思われる。この事業は本当に良い試みだと思うので、今後も引き続き継続いただければ良いと考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 御指摘を踏まえ、事業内容が評価できる指標を検討していきたい。 現職の母子保健コーディネーター及び今後母子保健コーディネーターになる可能性のある方を対象に研修を実施しており、毎年継続して参加いただき、様々な意見交換等を通じてスキルアップを重ねている。 やまがた子育て応援サイトでの発信のほか、少子化克服に向けて、新たに、結婚・妊娠・子育てを応援するプログラムを一体的に進めPRすることとしている。(右記参照) 御意見を踏まえて取り組みたい。 	<p>【予算額】 53,530 千円 【見直しの内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> 市町村からの要望に対応し、事業を継続していく。 <p><継続事業></p> <ol style="list-style-type: none"> ようこそ赤ちゃん応援メッセージ・ギフト事業 産後ケア事業及び産婦健康診査事業 母子保健コーディネーター研学会・検討会等の開催 子育て世代包括支援センターの運営支援等 多胎妊娠の妊婦健康診査推進事業 <ul style="list-style-type: none"> 令和4年度は、結婚・妊娠・子育てを応援するプログラム「山形しあわせ♥LIFE 応援プログラム事業」のなかで不妊治療の助成を実施するとともに、本プログラムについてPRを押し進め、周知を図っていく。 <p>※山形しあわせ♥LIFE 応援プログラム事業(161,856 千円)</p>

事業名 (R2 当初予算)	事業概要 (R2)	外部評価	所管部局の対応	R 4 当初予算の内容 (見直しの内容)
<p>届けよう山形の魅力プロジェクト事業費 【産業労働部】 18,208 千円</p>	<p>・「山形ブランド特命大使」の活動を通じた山形の魅力の国内及び海外への発信</p> <p>・平成 28 年度に策定した「メイドイン山形」のブランドコンセプトを踏まえたプロモーション活動</p> <p>・関西圏へのアンテナショップの整備に向けた調査検討(平成 29 年度～)</p>	<p>[委員意見]</p> <p>・関西のショップを山形県単独ではなくて宮城県とコラボレーションして展開していくという考え方は大変良い。コストも削減できるだろうし、2つの県が一緒になってPRをしていると、やはりインパクトも大きくなると思うので、ぜひ成功につなげていただきたい。</p> <p>・コロナ禍において、プロモーションをどう進めるべきか検討して欲しい。過去のプロモーションの手段や方法ごとに費用対効果を検証して、効果的な手段を選択してはどうか。</p> <p>・米は独自にブランド化を図っているのので、米を除いた評価をやってみてはどうか。</p>	<p>・関西圏における期間限定アンテナショップについて、令和3年度は宮城県と合同で出店した。事業費の半額を宮城県から負担していただくことでコストを削減することができたほか、2県の特産品を手にとっていただくことで、6月の出店では過去最高の客単価となるなど、一定の相乗効果があったものと受け止めている。一方で、限られた場所・期間における合同出店は、単県での出店と比較して、1県あたりの商品数や売上が少なくなること等の課題もあった。来年度の開催に向けて、宮城県と協議を重ねてきたが、合同出店は見送ることとなった。</p> <p>・コロナ禍において、どのような手法が訴求力を持つのか、効果的な手法を検討していきたい。</p> <p>・ご指摘を踏まえ、事業内容が評価できる指標を検討していきたい。</p>	<p>【予算額】 51,044 千円 【見直しの内容】</p> <p>・関西圏における期間限定アンテナショップを本県単独で出店し、引き続き、マーケットリサーチと県産品のPRを実施する。</p> <p>・アンテナショップ「おいしい山形ブラザ」のECサイトを新たに開設し、アンテナショップの商品をオンラインで販売する。</p> <p>・コロナ禍におけるオンライン活用の重要性の高まり及び購入経路としてのリアル店舗の訴求力の大きさから、web とリアル両方の場において情報発信を実施。</p> <p>・ポータルサイトを核とした継続的な情報発信を実施していくことから、サイトの訴求力を表す数値として「サイト滞在時間の増加」を指標とし、目標の達成に向けて引き続き事業を実施。</p>

事業名 (R2 当初予算)	事業概要 (R2)	外部評価	所管部局の対応	R 4 当初予算の内容 (見直しの内容)
		<ul style="list-style-type: none"> ・全体としてイメージアップのために進める事業である。こうした事業は続けていないとすぐに順位が下がるので、継続していく必要がある。 [県民意見] ・いいものサイトなどは、人気のフォトグラファーなど採用し目を引くデザインになっていて良いと思う。 農産物や食品のブランド知名度は全国的に高くなっているが、工芸品や衣類、雑貨の質の良さはまだ知名度が低いと思う。アンテナショップで工芸品や雑貨などの販売があっても良いと思う。 ・農産物の山形のブランド力は徐々に浸透しているように感じる。東京のアンテナショップでも食べ物の人気は高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの取組みによる機運の高まりを確実なものにするために、継続的な情報発信に取り組んでいきたい。 ・山形県産品ポータルサイト「いいもの山形」に関心をお寄せいただき、感謝申し上げます。引き続き、「山形県産品＝上質ないいもの」というブランドイメージの定着に向けた継続的な情報発信に努めてまいります。 アンテナショップでは、工芸品や雑貨なども販売しているが、一部の品目に限られることから、御意見を踏まえ、販売品目を増やすことを検討していく。 	

事業名 (R2 当初予算)	事業概要 (R2)	外部評価	所管部局の対応	R 4 当初予算の内容 (見直しの内容)
バリアフリー観光推進事業費 【観光文化スポーツ部】 2,000 千円	民間事業者が所有している不特定多数の人が利用可能な観光施設トイレのバリアフリー化等改修に要する経費に市町村が補助金を交付する場合に補助金を交付するもの。	<p>[委員意見]</p> <ul style="list-style-type: none"> 成果の指標として、県外からの観光者数の設定がされているが、今のコロナ禍やアフターコロナを考えると、観光客の中には県内の皆さんも当然入ってくるわけであり、そういった対象について、子どもたちや障がい者、お年寄りも含めて県民にどういった動きがあるのかという分析も重要だと思う。まずは県内の多くの皆さんがバリアフリー施設に触れて、生活が豊かで充実するというのであれば、当然県外から観光にいらっしゃった方についても同じような豊かな生活が御提供できると思っている。是非予算が少なくならないように、何をもって評価するかという評価対象も幅広くに検討いただいて、将来につながっていく事業にしていきたい。 この事業というのはやはり豊かな生活とつながっているもので、さらに進めていかなければならないと考えている。今後とも予算の範囲でということになると思うが、進めていただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 当該事業については、国(観光庁)で類似の補助事業を行っていること、また、これまでの取組みの成果により観光施設トイレのバリアフリー化が進んできており、一定の成果が得られていることから、令和3年度をもって廃止する。 令和3年度については、当該事業のほか、宿泊施設や観光立寄施設のポストコロナを見据えた新たな需要に対応するための取組みに対して補助を行う事業を実施し、その中で、バリアフリーを含むユニバーサルツーリズムに対応した施設改修等への支援も行った。令和4年度もこのような支援を継続する予定である。 	<p>【予算額】 0 千円 【見直しの内容】 当該事業を廃止</p>
やまがた森林ノミクス推進事業費 【農林水産部】 23,291 千円	<p>「やまがた森林ノミクス」をさらに加速化を図るため</p> <ul style="list-style-type: none"> 再造林支援 県産木材の積極的な利活用 	<p>[委員意見]</p> <ul style="list-style-type: none"> 山形県のCO₂削減目標が高い目標値になっているので、県民に対する啓発活動を強化していくべきではないか。 森林はカーボンニュートラルや河川災害予防にも役に立ち、森林療法や森林セラピー、グリーンツーリズムに利用されるなど、複合的な効果を生むため、再造林は必要だと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> やまがた森林ノミクスで進めている森林資源の循環利用は、森林吸収源対策として大いに貢献することから、県民総参加で取り組んでいただけるよう積極的な情報発信に努めていく。 森林の公益的機能の維持増進を図りカーボンニュートラルの実現を目指す上で、森林の若返りにつながる再造林を進めていくことは重要であり、再造林率 100%の継続とともに再造林面積の拡大を図っていきたい。 	<p>【予算額】 6,336 千円 【見直しの内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> 本事業は、令和4年度から「やまがた森林ノミクス」への県民総参加に向けた意識醸成のための情報発信や普及啓発等に特化した事業へとスリム化を図る。 山形県青年林業士活動推進事業は、試験研究事業に移行 再造林支援制度推進事業は、再造林推進事業に移行 県産製材品高度化促進事業は、

事業名 (R2 当初予算)	事業概要 (R2)	外部評価	所管部局の対応	R 4 当初予算の内容 (見直しの内容)
		<p>[県民意見]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森林を維持しつつ木材利用を進める上で、非常に有効な施策。地震対策としても活躍する木堀の開発が進んでいるなどする中で、活動指標として、大きく見込みを上回っている「高性能林業機械保有台数」よりも「木造化・木質化の割合」を指標としても良いのではないかと考える。 ・「やまがた森林ノミクス」という言葉を広めて、県民の意識を変え、行動を変えようと考え、県が率先して対外的なPRを行う必要がある。しかし、「やまがた森林ノミクス」という名称だけでは、なかなか業務の内容までは把握できないので、県の取り組みを広く知らせるためにもPRに力を入れるのがよいと考える。 ・再造林率の伸びがあまり芳しくない中で、再造林支援制度推進事業に多くの予算をつけていることは実態に即した使途かと思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本事業は、本県の豊かな森林資源を余すところなく活用する「緑の循環システム」の構築により、森林の多面的機能との調和を図りながら、林業及び木材産業の振興や関連産業の振興に資する取組みを総合的に行う事業である。令和4年度からは、事業を再構築し、木造化・木質化の推進については「やまがた森林ノミクス木材利用推進事業」の中で取り組んでいく。 ・令和4年度から「やまがた森林ノミクス」への県民総参加に向けた意識醸成のための情報発信や普及啓発等に特化した事業に明確化を図り、「やまがた森林ノミクス」の情報発信について、SNS の活用など引き続き積極的な情報発信に取り組んでいく。 	<p>JAS 認定工場の配置に一定の成果が認められるため事業を廃止</p> <p>※ 森林吸収源対策については、新たな事業として、森林の若返りによるCO₂吸収量の増大を図るための効率的な間伐や低コストによる主伐・再造林の推進に向けた取組を実施する。</p>

事業名 (R2 当初予算)	事業概要 (R2)	外部評価	所管部局の対応	R4 当初予算の内容 (見直しの内容)
<p>オリンピックメダリスト育成事業費 【教育庁】 106,916 千円</p>	<p>◇本県からのオリンピックメダリスト輩出に向けた選手等の育成・強化事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国民体育大会出場候補選手等の強化 ・YAMAGATA ドリームキッズの発掘・育成 	<p>[委員意見]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実績が着実に上がってきており、子どもたちもいろんな夢を実現したいと頑張っていると思うので、是非良い形で継続してほしい。 ・パラアスリートへの支援事業はあるか。運動面の充実ということを考えたときには、パラアスリートの方も活躍できる状況が最も望ましいのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の北京 2022 冬季オリンピックスピードスケート競技で、待望の銅メダルを獲得した。引き続きオリンピックでのメダル獲得へ向け、継続して取り組んでいきたい。 ・パラアスリートへの支援については、健康福祉部において、競技力向上を図るための活動支援として、大会等参加に要する経費への支援事業を実施している。 ・教育庁では、パラスポーツを含めた競技スポーツで優秀な成績を収めた者の功績を讃えるため、毎年度、山形県スポーツ賞の表彰を実施している。 ・今後も健康福祉部と連携し、パラスポーツも含めた本県競技スポーツの振興に取り組んでいきたい。 	<p>【予算額】 69,040 千円</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国民体育大会出場候補選手等の強化及び YAMAGATA ドリームキッズの発掘・育成を継続して実施する。 <p>【見直しの内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動が少ない競技等の中高生の有望選手に対し、競技団体が活動拠点(地域・施設)を活用し、一貫した育成・強化を図れるよう、新たに支援を行う。 <p>上記のほか、スポーツ報償費として 1,309 千円(山形県スポーツ賞などの経費)を計上している。</p> <p>《参考》 令和3年度山形県スポーツ賞受賞者(パラアスリート)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○大 賞 <ul style="list-style-type: none"> 東海林 大(パラリンピック複数入賞) 齋藤 元希(パラリンピック複数入賞) ○栄光賞 <ul style="list-style-type: none"> 太田 渉子(パラリンピック出場) 竹井幸智恵(パラリンピック出場) 齋藤 京香(ジャパンパラ水泳競技大会 1 位、日本記録樹立) 佐藤 博輝(日本記録樹立) ○栄誉賞 <ul style="list-style-type: none"> 相田佳奈子(権威ある全国大会で 1 位) 丹野 美穂(権威ある全国大会で 1 位)

事務事業評価（事業レベルのPDCA）県民意見募集の結果について

このことについて、令和3年度事務事業評価（令和2年度実施事業の新規10事業）の内部評価結果に係る県民意見と、令和4年度当初予算への反映状況等は以下のとおりです。

記

- 1 募集期間 令和3年10月4日（月）～令和3年11月5日（金）
- 2 募集方法 郵便、ファクシミリ、電子メール
- 3 提出状況 9件（2名(男性:1 女性:1)）

	部 局	事 業 名	件数
1	企画	先進ICT利活用推進事業費	0
2	防災	高齢運転者交通安全対策強化推進事業費	0
3	環境	イノシシ等鳥獣被害緊急対策事業費	3
4	子育	やまがたで出会い・結婚、子育て応援事業費	3
5	健康	すこやか・安心地域づくり推進事業費	0
6	産業	山形の未来を担う産業人材創出事業費	0
7	観光	バリアフリー観光推進事業費	0
8	農林	農林業専門職大学等キャンパス整備事業費	0
9	県土	水害・内水被害軽減緊急対策事業費	0
10	教育	社会を生きぬく確かな学力育成事業費	3

4 提出された主な意見の概要と令和4年度当初予算への反映状況等

部局名	意見の概要	R4 当初予算への反映状況
環境エネルギー一部	<p>【イノシシ等鳥獣被害緊急対策事業費】</p> <ul style="list-style-type: none"> イノシシによる農作物被害額について、令和元年度は昨年度から微増ということで、県の対策による効果は一定程度現れているように感じる。昨年度よりも予算的にも力を入れているので、さらに効果が現れることを期待している。 活動指標が被害対策を実施した市町村数とされているが、国から半分補助が出る事業であるため、より高い目標(令和5年度にほぼ全ての市町村)としてもよいのではないかと。 イノシシの捕獲を進めるだけでは根本的な解決には近づかないため、農作物被害を減らすための最新技術を地元農家が導入できるように、実証に力を入れているのは評価できるポイントだと感じた。 市町村が個別に実施するのでは、他の市町村にイノシシ等が移ってしまうだけと考えられるので、県が実施し、各市町村横並びの対策を実施しつつ、隣県とも協力しながら対応すべき課題であり、県が主体的に実施すべき事業である。 	<p>【予算額】 20,303 千円</p> <ul style="list-style-type: none"> イノシシによる農作物被害額は、令和2年度は約 9,360 万円(対前年度比 26%増)となり被害額が増加した。県では、被害防止対策を推進し、被害額を軽減するため、「イノシシ被害対策の強化」の関係予算の拡充に努めており、令和4年度当初予算では約3億6百万円(対前年度比 23%増)を計上。特に被害防止に効果的であるとされる広域的な電気柵等の整備を強力に推進していく。 当該事業は、イノシシ対策のために令和2年度に創設された新規事業であり、国の鳥獣交付金事業のメニューにはない取組みについて、多くは県単事業として事業化している。 市町村からは国の鳥獣交付金事業を十分に活用いただいたうえで、さらにイノシシ等被害防止対策を推進するため、当該事業の活用を促していきたい
しあわせ子育て応援部	<p>【やまがたで出会い・結婚、子育て応援事業費】</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和3年度の予算額が減っているが、「子育てするなら山形県」を掲げているので、もっと予算があっても良いと感じる。もしくは、市町村に多くの部分を委託している等により県の予算からは落ちているのだろうか。新型コロナウイルス感染症が落ち着いてきた今こそ、移住施策にも紐づくこの事業に力を入れても良いのではないかと。 	<p>【予算額】 999 千円</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和4年度は、アフターコロナを見据え、結婚、妊娠、子育てのそれぞれのステージにおいて希望が叶い、山形でしあわせな生活が満喫できるよう「山形しあわせLIFE 応援プログラム事業」(予算額 161,856 千円)を政策パッケージとして一体的に実施することとしている。 また、結婚を望む方を全県一体となって支援する「やまがたハッピーサポートセンター」にAIマッチングシステムを新たに導入し、出会いの機会の創出を拡大していく。(予算額 29,000 千円) 各施策の取組みについて、山形子育て応援サイト等のウェブコンテンツやSNSを活用して県内外に積極的にPRすることで「子育てするなら山形県」を実感していただけるよう取り組んでいく。

	<ul style="list-style-type: none"> ・少子化は日本全体が直面している重要な課題であり、特に山形県は就職と同時に県外に出てしまう若者も多いので、山形県で子育てをしたいと思ってもらえる土壌を作ることが肝心である。その際、山形県の支援策を知ってもらうにはイベントが有効であるため、その参加者数は目標とするだけでなく、是非達成いただきたい。 ・UターンやIターンで山形県を子育てする場所として選んでくださった移住者の方を直接支援できるのは市町村であるため、密に連携する必要がある。 	
<p>教育庁</p>	<p>【社会を生きぬく確かな学力育成事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の子どもの通う学校の先生からは、「これは先生の教え方の課題なのですが、学校全体の子供達は、考える力、応用する力が不足、苦手」と聞いている。子どもの応用力を培う指導方法について、学力向上支援チームの先生方からの学校への指導を引き続きお願いしたい。 また、今年度、子どもが登校できない時期があり、自宅でのリモート授業を初めて実施した。子どもは先生の話じっくり聞き、集中して授業を受けていたように感じた。先生たちも「手探りでやった」とのことだったが、リモート授業にはメリットがたくさんあると思うので、活用できるよう、指導方法やリモートのコツなど、県から学校へわかりやすく伝えてほしい。 ・事業目標については、そのとおりでと思います。達成度については、令和2年度の成果実績がないのでわかりません。 ・妥当だと思います。 	<p>【予算額】 122,756 千円</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この事業は、主体的・対話的で深い学びの実現により、確かな学力を育成するために、各施策を一体的に推進するもの。令和2年度からは、各教育事務所に学力支援アドバイザーを配置し、学力向上支援チーム(～R5)を組織して、各校を複数回訪問することで課題に応じた指導・助言を行ってきた。 コロナ禍において、各校では、子どもの学びの保障のために、一人一台端末を活用したオンライン授業等の試行が始まっている。令和4年度には、県内各校におけるICT活用の促進を図るために、新規事業として県内の教員を対象としてICT活用フォーラムを開催する予定。このフォーラム等により令和2年度からの2か年の委託事業におけるICT教育推進拠点校等の効果的な実践事例や指導のノウハウ等を紹介しながら、県内の教員の授業改善につなげていきたい。